

# ミナミアオカメムシ情報第1号

平成26年6月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## 1 コムギ及びほ場周辺雑草における5、6月の発生推移（図1，図2）

小麦、水稻、大豆の輪作地帯ではミナミアオカメムシの好適な餌が春から秋まで連続的にあるため、発生量が多くなる傾向があります。

越冬世代成虫は5月中下旬にコムギに産卵します。ふ化した第1世代幼虫は、コムギの穂を餌として収穫前までに3、4齢幼虫まで成長します。収穫後は、ほ場内のタデ科雑草や畦畔のイタリアンライグラスに移動し、それらの子実を餌として成育し、第1世代成虫が6月下旬頃発生します。第1世代成虫は早期栽培水稻に飛来、加害します。

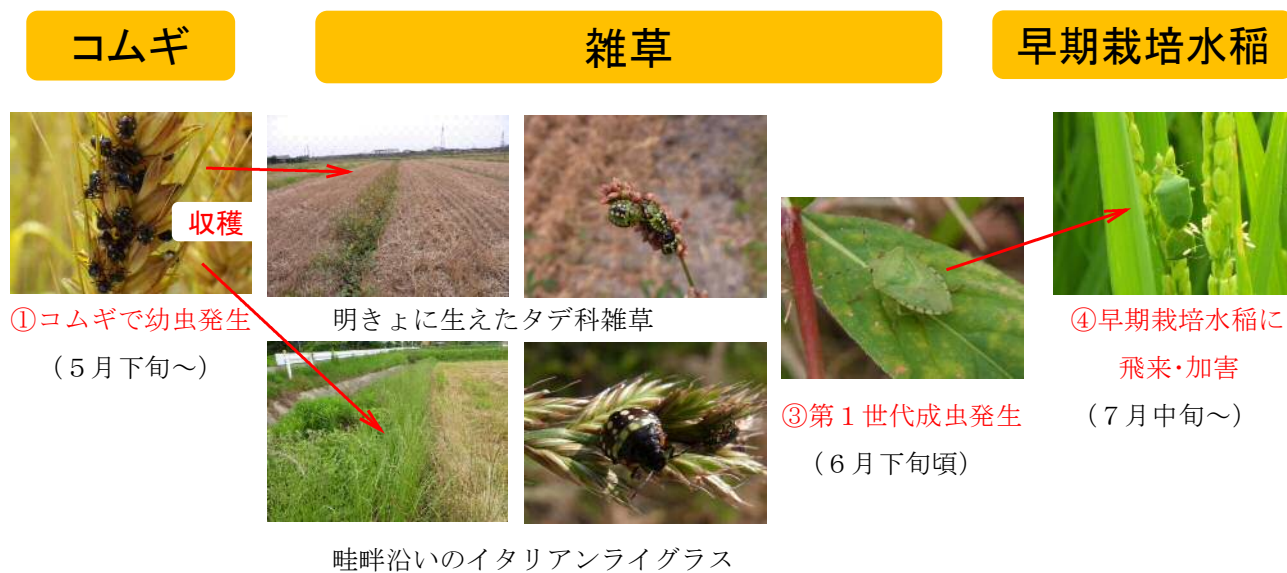


図1 コムギ及びほ場周辺雑草におけるミナミアオカメムシの発生推移

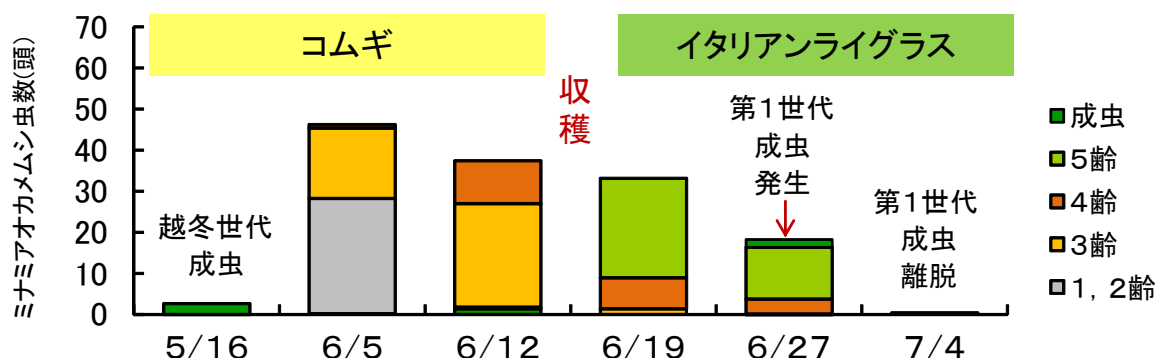


図2 コムギ及び畦畔のイタリアンライグラスにおけるミナミアオカメムシの齢期別発生量 (平成25年幸田町コムギほ場における調査結果)

コムギ：捕虫網20回すくい取り虫数、イタリアンライグラス：20㎡当たりの見取り虫数

## 2 平成26年の第1世代成虫発生予測

- (1) 西三河地域で5月中旬に実施したコムギにおけるすくい取り調査の結果、越冬世代成虫の発生量は過去3年で最も多く、特に豊田市や安城市で多くなっています(図3)。
- (2) 名古屋地方気象台5月29日発表の気象予報によれば、向こう1か月の気温は、平年並か高く、降水量は平年並か少ないため、第1世代幼虫の成育に好適な条件が見込まれています。
- (3) 以上から、第1世代成虫の発生量は過去2年に比べて多く、早期栽培水稻への飛来も多くなると予測します。

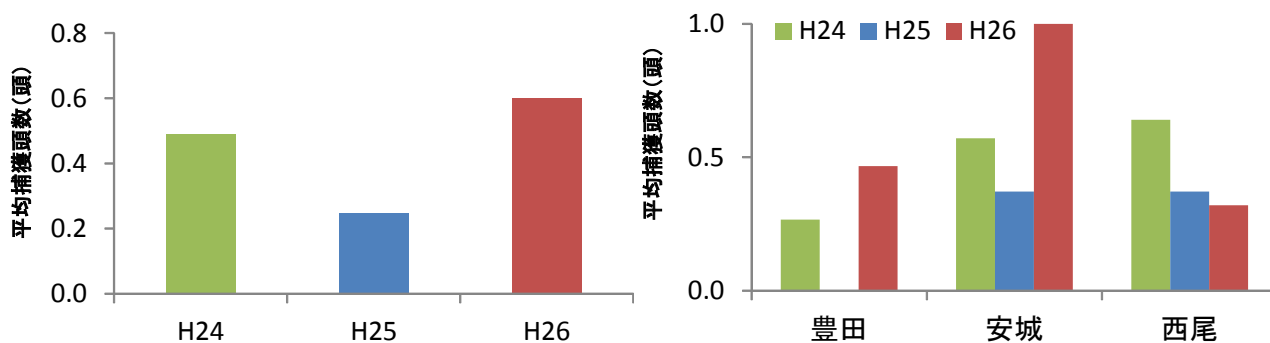


図3 西三河地域のコムギにおけるミナミアオカメムシの平均捕獲頭数  
(5月中旬調査、捕虫網20回すくい取り当たりの平均捕獲頭数)

## 3 防除対策

コムギ収穫後の第1世代幼虫の餌を断つために、①収穫前に畦畔を除草する②コムギ収穫後、明きよのタデ科雑草を残さない③大豆作付のためには場を耕起する時、明きよ内の雑草を残さない(図4)などの除草対策を行いましょう。



①収穫前に畦畔除草を行う



②収穫後に明きよのタデ科雑草を残さない



③耕起する時に明きよ内の雑草を残さない

図4 コムギほ場における除草対策